

アイスランド南部および北部の地質観光資源

金丸 龍夫*

Geological Resources for Tourism in North and South Iceland

Tatsuo KANAMARU*

Abstract

In August 2008, I visited some rift zones, volcanoes, and glaciers in Iceland, and was impressed with Iceland's nature and Icelandic activities for harnessing it. I would like to introduce you to some of the geological tourist attractions in Iceland.

Key words : Iceland, Tourism, Þingvellir, Gjá, Glacier, Mývatn, Klafla, Askja

キーワード : アイスランド, ツーリズム, シングベトルル, ギャオ, 氷河, ミーバトン, クラブラ, アスキヤ

2008年8月下旬、首都レイキャビクにあるアイスランド大学で開催された国際火山学会 (IAV-CEI 2008 General assembly) の際、当地を訪れた。訪れた主要な場所を口絵1-図1に示した。見学した場所は、Þingvellir 国立公園の Gjá (口絵1-図2)、間欠泉 Geysir (口絵1-図3)、Sólheimajökull 氷河 (口絵1-図4)、Herðubreið 火山近傍の原野 (口絵1-図5)、Herðubreiðarlindir という緑地帯に湧き出る湧水群 (口絵1-図6)、Askja 火山 (口絵1-図7)、Mývatn 湖・Klafla 火山 (口絵1-図8, 図9)、氷河性河川などである。本州の半分以下の面積を持つ国内の主要市街は空路やバスで結ばれ、各市街から観光バスやツアーなどで容易に各地にアクセスすることができる。尚、この時、間欠泉 Geysir の東部にある氷河性河川 Hvítá 川中流部の滝 Gullfoss も訪れた。これについては、本誌117巻6号の表紙写真および解説を参照されたい。

Þingvellir 国立公園はレイキャネス半島から北東へ延びるリフト帯の一部である (口絵1-図1)。Gjá は割れ目を意味するアイスランド語で、パホ

イホイ溶岩からなる大地の裂け目の中でプレート発散境界の真っ只中にいることを体感できる (口絵1-図2)。このリフト帯の東端にある Sandfell 火山の麓には、Geysir と呼ばれる間欠泉 (口絵1-図3) がある。荒涼とした景色の中に、2~3分に一度30m程の高さに吹き上がる間欠泉は圧巻である。

Sólheimajökull 氷河 (口絵1-図4) は、首都レイキャビクから約100km、アイスランド南部に位置する Mýdalsjökull 氷河から舌状に延びる氷河である (口絵1-図1)。普通車で容易に行くことができる近接の駐車場から徒歩5分あまりで氷河に触れることができる。氷河上の歩行に必要な装備のレンタルを含むガイドツアーなどが催され手軽に氷河散歩を楽しむことができる。氷河には多くの玄武岩質の岩層が含まれており、黒々とした岩層からなる高まりが氷河の上に見渡す限り続いている。

Mývatn 湖周辺は Klafla 火山系の南部に位置しており (口絵1-図1)、周辺は Klafla 火山系から流出した溶岩による様々な景色がみられる。

* 日本大学文理学部地球システム科学科

* Department of Geosystem Sciences, College of Humanities and Sciences, Nihon University

Mývatn 湖は湖に溶岩流が流入したことにより形成されたリトラルコーン（口絵 1- 図 9）が有名である。湖岸には、美しい円型の火砕丘がいくつも連なっている。リトラルコーンは、ルートレスコーンやシュードクレーターという名称でも呼ばれる。Dimmuborgir（口絵 1- 図 8）は、約 2000 年前に流出した Younger Laxárdalur 溶岩（Thordarson and Hoskuldsson, 2002）が公園として整備されている場所で、10 数 m 程の高さの溶岩柱により奇怪な景色が形作られている。

Askja は箱を意味するアイスランド語で、Askja 火山はアイスランドの中東部に位置するカルデラ火山である（口絵 1- 図 1）。Mývatn 湖から Askja 火山へ至る道は、舗装こそされていないもののよく整備され、4 輪駆動車であれば、快適な道のりである。ただし、途中いくつかの小河川を渡る必要がある。かつては川幅数 10 m もある氷河性河川を渡る道であったが、度重なる事故のためルートは変更され、橋が掛けられたそうである。道中は、パホイホイ溶岩と、氷河下で火山活動が起こることにより発生する洪水の堆積物による黒灰色の景色が続くが、Askja 火山に近づくにつれ、地表は Askja 火山 1875 年プリニー式噴火による黄土色の軽石に覆われる（口絵 1- 図 5）。この日は、その王冠状の形から Queen of Iceland と呼ばれる Herðubreið 火山をよくみる事ができた（口絵 1- 図 5）。Herðubreið 火山は氷河期に活動した火山で、氷河下での火山活動の噴出部の上に、乾陸上の噴出物が重なることによりできた卓状火山である（Thordarson and Hoskuldsson, 2002）。Herðubreið 火山の北東には Herðubreiðarlindir（Oasis of Herðubreið）という緑地帯が広がっている。ここでは、溶岩流の末端部付近から湧き出す清澄な湧水群がみられる（口絵 1- 図 6）。Askja カルデラの北東縁の 1961 年噴火の溶岩流や火砕丘を通り過ぎ、Askja カルデラ

内を南へ 15 ～ 20 分程歩くと、火口湖 Öskjuvatn と Viti にたどり着く（口絵 1- 図 7）。前者はアイスランド最深の湖（深度 220 m）である。後者は乳青色の湯を湛え入浴することができる観光客に人気のスポットである。

以上は著者が数日間急ぎ足で巡ったもので、アイスランドの地質観光資源のごく一部である。このような地球科学的に非常に興味深い場所が観光資源として非常に有効に活かされているというところにアイスランド最大の魅力を感じた。レイキャビク市街の書店では地球科学関連の書籍・DVD を一つも扱っていなかったことに多少の驚きを感じたが、アイスランドの地質図は、土産物屋やホテルの売店などで容易に購入することができる。ツアーガイドに限らず、著者が遭遇した現地の方々は皆、英語によりコミュニケーションが可能であった。アイスランドは地球科学に興味を持つ外国人にとってとても魅力的な土地であることは間違いない。

謝 辞

本稿は日本大学文理学部山川修治教授のご後援なしには実現しなかった。現地では、熊本学院大学経済学部新村太郎准教授、信州大学ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点齋藤武士博士、愛知大学経営学部古川邦之博士、熊本大学三好雅也博士の各氏に火山地質について御指導いただいた。日本大学文理学部安井真也准教授にはアイスランドについての様々な文献をご紹介いただいた。本稿を作成するにあたり、本誌編集委員長である静岡大学理学部笠原順三客員教授、日本大学文理学部高橋正樹教授、同大宮地直道教授、アジア航測株式会社千葉達朗氏、明治大学長井雅史氏には有益なご助言をいただいた。以上の方々に厚く御礼申し上げます。

文 献

Thordarson and Hoskuldsson (2002): *Iceland, Classic Geology in Europe 3*. Terra Publishing.